

かほく市議会 広報特別委員会 視察報告

【研修日程】

令和7年11月10日（月）～11日（火）

【視察研修先及び内容】

1. 株式会社会議録センター：議会だより編集の基本について
2. 読売新聞東京本社：会社見学について
3. 国立国会図書館：東京本館の参観について

【参加者】

広報特別委員長	長柄	裕
副委員長	杉本	正一
委員	高橋	成典
	野田	稔彦
	高井	篤志
	橋川	章
随行	北川	直紀
	酒井	大介

議会だより編集の基本について （株式会社会議録センター）

株式会社会議録センターは、議会広報支援や議会研修、議員向けシステムの提供などを通じて、地方議会の情報発信を幅広く支援している企業です。

研修では、まず「議会だよりの意義と役割」について説明がありました。議会だよりは、市民と議会をつなぐ重要なコミュニケーションツールであり、親しみやすく、わかりやすい紙面づくりが求められることが示されました。続いて「一般質問原稿の書き方」を中心に、原稿作成の基本や簡潔にまとめるコツを具体的な事例を交えて学びました。質問内容は、初めて読む市民にも理解できるよう、質問に至るまでの背景や課題を明確に示すことが大切であり、「一度読んだだけで理解できる紙面」を意識する必要があることを確認しま

した。

本市の最新号をもとに紙面の改善点についても助言をいただきました。表紙は季節の写真に限らず、人物の笑顔を載せるなど“手に取りたくなる紙面”とする工夫が有効であると指摘されました。2～3ページは議案一覧や採決結果でなく、市民の関心や関わりの深い記事を掲載することが望ましいとされました。また、余白の活用、フォントの調整、記事の掲載順の工夫など、紙面デザインの観点からも多くの改善提案をいただきました。

今回の研修を通じて、議会だよりは単なる議会報告ではなく、市民に開かれた議会運営を象徴する媒体であることを改めて認識しました。今後は、市民目線を重視し、限られた紙面の中で効果的に情報を伝える広報づくりに努めていきたいと思います。



会社見学について (読売新聞東京本社)

東京都千代田区にある読売新聞東京本社を訪問し、新聞づくりの現場と報道の仕組みについて学びました。読売新聞東京本社は、関東・北海道・東北・北陸など広範な地域に向けて紙面を発行する中核拠点であり、ニュース制作のみならず、広告、イベント、インターネットなど多様な分野で事業を展開している企業です。

はじめに会社案内の映像を視聴し、「新聞社＝報道機関」ととどまらず、社会全体に関わる総合メディア企業としての姿勢を理解しました。その後の社内見学では、新聞制作の中心となる編集局をはじめ、スポーツや文化イベントを手がける事業部門、デジタルニュースを担当するメディア部門などを見学しました。多くの部署が連携し、膨大な情報を迅速かつ正確に扱う体制が整えられていることが印象的でした。

映像によるレクチャーでは、記者の取材活動から記事執筆、編集、校閲、紙面レイアウトに至るまで、新聞が読者の手に届くまでの過程を学び、特に、編集会議で記事の重要度を議論し、限られた紙面に何を掲載するかを決める過程において、議会だよりの発行に通じるものがあり、何を市民に届けたいかという議論が重要であると感じました。

今回の視察を通じて、読売新聞が長年培ってきた取材力と編集力の背景には、正確な情報を迅速に届けるための組織的な工夫と努力があることを実感しました。地方議会広報においても、読者目線に立った情報発信の重要性を改めて認識する貴重な機会となりました。



東京本館の参観について (国立国会図書館)

国立国会図書館（東京本館）を視察しました。

国立国会図書館は、国会議員の調査研究を補佐する機関として、専門的な調査研究を行い、必要な資料や情報を提供しており、また、「納本制度」に基づき、国内で出版されたすべての出版物を収集・整理し、国民の文化的財産として後世に保存しており、年間約 70 万冊を保存しているということです。参考までに、かほく市議会だよりも保存されています。そのほか、情報資源の提供として、一般利用者にも図書館資料の閲覧、複写などの図書館サービスも行われています。

建物は、本館は地上 6 階建て、新館は地上 4 階地下 8 階建てで、両館は渡り廊下で連結されています。今回見学した新館書庫は、地下約 30 メートルの深さまで 8 層にわたって広がり、主に雑誌や新聞を収蔵しています。地下構造とすることで、地震時の揺れを抑え、また外気の影響を受けにくく温湿度管理が容易になるなど、資料保存に最適な環境が整えられていました。

書庫内では温度 22 度、湿度 55%を保ち、紫外線を抑えた照明を採用しています。外部からの虫やカビの侵入を防ぐため、立入りには靴カバーを着用するなど厳格な管理が行われていました。万一の火災に備え、水ではなくガスによる消火設備を導入している点も印象的でした。

また、書庫中央には地下 8 階まで自然光が届く「光庭（ひかりにわ）」が設けられ、閉鎖的な空間の中でも職員の作業環境が考慮されていました。

今回の視察を通じ、膨大な資料を安全に保存し、効率的に利用者へ提供するための工夫と、文化資産を未来へ継承する使命を感じました。今後の市議会広報における情報管理や記録保存の在り方を考えるうえでも、多くの学びを得ることができました。

